



加部系人羽
五

4338
8



山田
西村
浦町



武女



おと娘

三申之上

て一人に云わけて八旦那の形おぬぬといひ物のつら私ぞこれふ。尤
 せんをとおひい勅當の儀のさふもサア切しやんせサア大ゆを
 安と私さびるちが首討もこと由同ふきさんしとそれと切に勅當のこび
 て下さんせサア切て下さんせとくびせ二つが人に困らぬぬを
 があどとそそいぬぬとやんるに切をよサア切しやんせサアマ
 切て下さんせやうかれがふととゆにうてそ切まいとあふてナことふと
 身でも人ハ切といとくびせかむあも私とくびせ切らぬぬを
 んるら一ハさしぬんをまとくびせかむあも私とくびせ切らぬぬを
 ぞハ不トとくびせ切がさきいひのコレヤぬるに及ぬ疑ひハとくびせ

といハとくびせ切らぬぬをとくびせ切らぬぬをとくびせ切らぬぬを
 こかぬの心切私やいといひとくびせ切らぬぬをとくびせ切らぬぬを
 してこのものうとくびせ切らぬぬをとくびせ切らぬぬをとくびせ切らぬぬを
 と假令死とくびせ未末とくびせ也とくびせ末末とくびせ也とくびせ末末とくびせ也とくびせ末末とくびせ也
 ぞも二とくびせちの人とくびせ今とくびせ留とくびせ返とくびせ車とくびせととくびせまとくびせてとくびせウとくびせアとくびせイとくびせととくびせんとくびせあとくびせらとくびせ女とくびせ婿とくびせう
 ぞいとくびせウとくびせ私とくびせハとくびせナとくびせあとくびせふとくびせゆとくびせしとくびせてとくびせいとくびせわとくびせるとくびせちとくびせのとくびせおとくびせまとくびせへとくびせにとくびせ市とくびせ販とくびせひとくびせグとくびせヤとくびせアとくびせゆ



でのあかこを人々へ笑ふてもそいひても大いなる世の名と多分
 とせれぬと申すもついでにぬかうありしとあふ女房あふ命と助
 ちかもせぬい物でもあけまごも女房ふれまされて助を力小布て命を
 六正まの頼舟子ろうとをさるぬ物物とあいの（は内初と申すのまゝに
 書いてある花束をあまされて
 さいりああぬ出ま美うへ物そのうぬとさふさふのや地のマ
 女房の隙をつてそりどとさうと女房にぬかすいのへマ嫉と云と
 かいでぬで笑ふてもついでにぬかうありしとあふ女房あふ命と助
 び今とやのそ来いまと申すといふととへんといふととへんといふと
 といれぬからぬ夢をさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬ

ぶくといひく物とやあまをかくてまをいれまを根引とやヤアそ
 ちと魚難いといひてまをまの身代へ山崎と次を清に來おさご
 の二百あつてそのまをまにさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬ
 とさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬ
 助を力と申すもついでにぬかうありしとあふ女房あふ命と助
 性痛者にぬかすもついでにぬかうありしとあふ女房あふ命と助
 びとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬ
 助を力と申すもついでにぬかうありしとあふ女房あふ命と助
 かんかくとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬとさるぬ

冥東へ下つて所が懐かや親且おゆさへなるゆさのどおのどやれ敵と
う川でとむいを極かたやれども敵又の昂ハ久落五水が知ぬゆせひ
あくお且船乃所候してそらく居つてもこゝろなと程こゝろ又よ
にふまいものい今親敵乗船に於ては度本にづく老いあまの
学又ぬこゝろながそ程を嗣性青でぬふといううと神佛もあ
つまぬれぬゆ子羽擣抜は痛者それ海と敵が思ふゆのふと
かへつりやあつてふおれが縁に連る助を力の出たさう心小擣ぬも
むりでもりのぬせんもどきぬふの利を便りあひぬのうおあひとり
と杖をしらたあてりる松と縁切の際をさのといそつやあんなりか

明效でふりキといか とわろくといひ入てあくはあひ 一はふ足乃履くゆ尤お
んぞさどいふも聳男乃好を兼づらひ技はる助を力とあ
てをもふといふおやあらんおとまぬド也 とおこも縁八きつと へ性としてとれ
仲敵討いぬんよ おしん ぬとゆふと比怪ド也と異なる
てまふが縁八が云 おしん 擣抜は痛者と男に於ていつては敵も
てまふ一人に笑ひまうなさいわりと縁切ては仕まひあさるがそつち
もこのちも勝もどやサアくさつわると縁切て仕まふさうくイヤ
縁ふ縁八切布まひあさるつりや又あせいのふへ縁切さうも傾城づくと
女事又にゆ成ささきたるあまこのお勝手へよまふけまどマアそふま

彼一夫をまのこゝろへ入中侍のつら松がたまへを去り申てい早く
 て下さんをおもふも南もふ水とつてあり申るへまこれ小作しやると私
 はやいやちめと練るうふふとが身つめりて人の痛さとりふるが
 こいナタサアまはあこの心乃内を推してい早くあ
 とむあつくとみと中私がおのこころはやくそふふ心
 あいほふおまへながれあしてそ若ぬまの
 うた夕圓形とつられおぬけま小はあつて
 りを頼めむとあ男の血を吸ふ絶げせの
 誰れふゆ申るは振がら申るはとこのれおとあされて

川ぬが力に成ていりかてもお異なさよつら
 どのぬお申てい去をいさぬと想い高ひま
 のふとつあけていさり杖がわりの一腰とスリヤ
 れぬの道を入生らわりの曲て成とも去て成た小
 と大をさくはちもか女まぐんらの指かしてあつ
 サア奥で飲進をいあまおとやとイイかあ
 可テさふの申るはひいおわりのむつと
 と奥なる人さきもまのちちでせりと
 来てたのるかま縁八いあか
 のころあていろくまんの
 ▲いつまはかか
 未れば次のまは

信
松
修
賀
城
新
村
合
合
三
平



二
中
并
二

